

令和3年度 南砺市立保育園審議会（第1回）会議録（要点筆記）

開催日時	令和3年4月26日（月） 午後2時30分～3時35分
開催場所	福光福祉会館 3階 しゃくなげホール
出席委員	・宮田 徹 会長 ・田中 一昭 副会長 ・庄田真智子 委員 ・得能沙友里 委員 ・松本 久介 委員 ・南田 実 委員 ・真草嶺信義 委員 ・野原 哲二 委員 ・三谷 直樹 委員 ・小林加津實 委員 ・澤田 清治 委員 ・水口 幹夫 委員 ・谷戸 仁美 委員 ・鉢蠟 圭伸 委員 ・木下三喜子 委員 ・長谷 優 委員（代理出席）（16名）
欠席委員	・得能 金市 委員 ・中田 章子 委員 ・谷川 為晴 委員 ・木田 麻衣 委員 ・光地 智子 委員（5名）
事務局	・松本 謙一（教育長） ・村上 紀道（教育部長） ・溝口早苗（こども課長） ・吉岡 亘（こども課） ・山田真由美（こども課） ・石崎 裕子（こども課）
傍聴人数	0名

1. 開会

2. 挨拶

教育長 本日は、令和3年度第1回保育園審議会を開催いたしましたところ、委員の皆さまには、大変ご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。

子どもの数が減少している中で、どのような環境が子どもにとって一番いいのか、子どもの利益を第一に考えて、今後の見通しを決めていきたい。

本日は、前回の皆さんのご意見をもとに、資料を準備したので、皆さまの、忌憚のないご意見をいただければありがたい。

会 長 本日は、お忙しいところご出席いただきありがとうございます。

第2次南砺市公共施設再編計画改訂に係る保有すべき施設数について、修正案をご協議いただき、保育園審議会としての方向性を決定し、提言書としてまとめていきたい。皆さまのご協力をよろしく申し上げます。

3. 協議事項

第2次南砺市公共施設再編計画改訂に係る保有すべき施設数（前回からの修正案）について（資料1、資料2、資料3、参考資料1～4）

事務局から資料1、資料2、資料3、参考資料1～4により修正案について説明
中期（令和2～7年）の間は、統合や複合化を行わず、現在の施設数を維持する。

長期の前期（令和８～１７年）の間に、山野保育園を井波にじいろ保育園に統合、利賀ささゆり保育園を「アーパス」に複合化、上平保育園と平みどり保育園を他の施設へ複合化、福光南部あおぞら保育園を福光どんぐり保育園と福光東部かがやき保育園に統合する。

これにより、令和２７年度までに単独の保育園として７園、複合施設を含めた保育園として９施設を維持する。

〈主な質疑・意見〉

A委員 令和７年度まで現在の施設数を維持するとされたことは評価する。保育園の統合と学校のあり方をリンクさせて考えるのはおかしいのではないか。

事務局 必ずしもリンクさせて考えているわけではない。保育園の統合・複合化については、遅くとも学校の義務教育学校等への移行にあわせて協議していく必要がある。

A委員 利賀・平・上平の複合化について、施設整備の経費を考えると本当に必要か。

事務局 集団保育に必要な施設整備については、お金をかけてでも整備していく。

B委員 利賀について、父母の会からは、利賀ささゆり保育園を存続させてほしいと聞いているので、耐用年数がある限り現在のままでお願いしたい。今後、地域で議論を重ねて進めていく。

C委員 前回よりもフレキシブルな内容になり、良くなったと思う。福光南部あおぞら保育園について、個人的な意見としては残してほしいと思う。

D委員 新学期になってから、「学校へ行きたいけど行けない」、「友達関係がうまくいかない」など、小学生の保護者から、『誰でもハウスめぐみ』への相談が増えた。なぜ、このような相談が増えるかという点、日常生活や家庭や保育園で、子どもたちが困らない環境を作っているからである。ただ抱きしめたり、可愛がったりするだけではなく、背中を押してあげることが大切である。

困った状況になっても、自分で自分を励ます力、自己肯定感があれば、たて直すことができ、ピンチをチャンスに変えることもできる。

子どもは大勢で遊ぶなかで、我慢する、待つ、工夫することなどを学ぶので、幼児期の環境が大切である。

会長 提言に、子どものことについても付け加えたい。

E委員 井口や利賀の学校再編のことが記載されているが、平・上平について、これまでに地域に話したことはあるか。

事務局 これまでに、平・上平の学校再編のことについて、具体的に話したことはない。学校のあり方検討委員会には、PTA役員等に入ってもらい、将来の方向性について決定した。今後、これ以上動くときには、地域への説明会を開催し、最終的にどうするかという判断をしてもらうことになる。

A委員 提言書の文言で、「進めていく」という表現があるが、「検討する」、「望ましい」という表現にすればどうか。

事務局 「進めていく」という表現は、会長と相談しながら、文言を変えていきたい。
また、本日欠席された委員からのご意見である、「地域の特性に配慮する」という文言をつけ加えたい。

F委員 このような会議にはじめて参加させていただき、とてもためになった。これからは、子どもたちの現場についてもっと勉強し、より良いものにしていきたいと思う。

G委員 統合や複合化の検討の時期がくれば各地域の説明会を開催していくと聞き、父母として、積極的に参加してほしいと思う。また、本日の会議の内容を持ち帰って父母会のメンバーに伝えたい。

H委員 あおぞら保育園での保護者アンケートでは、統合についていろいろな意見があったが、保護者目線や地域の盛り上がりのことを考えて、反対意見の方が多かった。本日のD委員の意見を聞いて、子どものことを考えると、大人数の方が良いことがわかったので、より良い方向に進めてほしい。

I委員 提言書に、「必要な時期に当審議会で協議する」とはどういうことか。

事務局 これまでは、「4年後に協議する」としていたが、4年後に決定するのではなく、必要な時期が来たら審議会で協議していきたい。また、保育園審議会は、今後も保育サービスや保育の充実等を議題に年2回は開催していきたい。

J委員 子どもの最善の利益を考えて、子どもたちにとって何が一番いいのかということを考え

ていってほしいというのが私の一番の願い。地域みなさんに支えられての保育園なので、「子ども」、「保護者」、「地域」の3つが1つになって計画を進めてほしい。

K委員 五箇山村は、人口減少が激しく地域の子どもたちが少なくなるので、学校統合を考えなくてはならない時期がくる。地域では、人口を少しでも伸ばすために、移住者の受け入れ等進めていきたい。

L委員 義務教育学校については、メリット、デメリットをきちんと説明してほしい。
また、保育園の統合・複合化については、各地域のタイミングにあわせて地域の検討の場を設けてほしい。

M委員 井口では、規模は小さくても役割を与えられてきちんとやっている。人数が少ないからこそ、上の子と下の子で遊んだりもしている。大規模だからいいわけでもなく、小規模でも良いところもある。地域で真剣に考えていく必要がある。

会 長 本日、委員のみなさまからいただいた意見をもとに内容を修正し、提言書として市長に提出したい。本日はありがとうございました。

4. その他

次回（第2回）の保育園審議会は、第2次南砺市公共施設再編計画改訂の進捗状況や、南砺市らしい教育・保育の姿や保育の質の向上、今後の保育サービスのあり方等についての内容で、10月頃の開催を考えている。

5. 閉会

副会長 本日は、大変お忙しい中集まっただき、貴重な意見をたくさんいただいた。おかげで、何とか提言書がまとまりつつあるのかなと思う。今後は、本日ご意見をいただいた、文言等を修正して会長、事務局と検討して完成させていきたい。

いろいろと貴重なご意見を賜り、本当にありがとうございました。

午後3時35分 終了